

JR30年を問う！国労全国安全キャラバン水戸集会

国労水戸

国労水戸地方本部
 水戸市中央1-1-11
 ENYビル2F
 029-221-4008
 発行責任者 塚原良雄
 編集責任者 坂下 司

後世に何を伝える

2月25日、地本会議室において、JR30年を問う、国労全国安全キャラバン水戸集会を40名の参加者で開催した。

塚原委員長より、全系統に合理化が進められて輸送障害、重大事故が発生し技術継承がされていない。安全とサービスの低下、苦勞している労働者の実態がある。労働条件を安全安定輸送を一体としながら組織強化拡大に結びつけていくと挨拶がありました。



護県民会議、鈴木代表より現在、国の予算が審議されているが地方交通への予算が増えている。平和の運動と住民の足を守る課題に対応していく。

技術力向上
 運動を

東日本樋口執行委員より17春闘は150000円の引き上げ、10項目の要求実現に向けて取り組む。労働条件の改善、エルダー制度について、会社の制度に責任を持つてもらう。安全の低下、JRの格差構造問題を各地方と連携して取り組む。各職協から報告をもらい、まとめとして赤沼書記長より、23年前の3・30事故を教訓、風化させないと毎年集会を開催している。各機関の点検摘発行動の強化で分会・班から要求を作る。本日の集会の取り組みを若い人にも伝えていこう。いわき以北、地域の足を守り、放射線問題など会社と確認をしながら、運転再開にむけて対策委員会を立ち上げ、福島支部を中心に問題点、扱われ様を議論していく。

各職協より

工務協議会
 2001年12月、メンテナンス体制が実施された。技術継承が進まず、輸送障害の多発、労働災害の増大、安全安定輸送が脅かされ、生命と権利が奪われてきた。
 電気協議会
 外注化・業務委託により要員が不足で安全確保が難しい。事故対策・教育を行うが事故は再発する。技術力・判断力の低下がる。
 運輸協議会
 機械化で窓口が廃止、利用者のサービス低下に。外注化業務委託かで安全確保が厳しくなった。特急列車の車掌は2人から1人体制で車内秩序維持やサービスの提供ができない。
 運輸協議会
 新しい乗務員制度により、徹底した効率化でグループ会社等へ委託が拡大され、偽装請負やパートナー社員の教育養成がされていない。
 貨物会社
 JR会社最低の労働条件・人件費である。65才以上の嘱託社員を使わないと仕事がまわらない。一昨日もJR北海道で脱線事故。国の補助がないと基盤が進まないし安全も守れない。

退職者の皆様と語る会

4月22日(土) 京成ホテル